

# Ramnet-J

NEWSLETTER

Vol.1 2009年5月発行

ラムサール・ネットワーク日本  
〒113-0021  
東京都文京区本駒込4-38-1 富士ビル2F  
TEL/FAX 03-5842-1882  
電子メール info@ramnet-j.org  
ウェブサイト http://www.ramnet-j.org



▲泡瀬干潟で自然観察をするエコツアー参加者。遠方に見える白い堤防状の構造物が埋め立て予定地を囲んだ「護岸」(4頁記事参照)

すべての湿地の保全と賢明な利用の実現を目指して

## ラムサール・ネットワーク日本「発足

### ラムネットJ設立総会開催

「水辺の生命と暮らしのネットワーク」をキャッチフレーズとして、NPO法人ラムサール・ネットワーク日本の設立総会が4月29日に東京で開催されました。

昨年10月に韓国で開催されたラムサール条約第10回締約国会議(COP10)にむけて、私たちは、「ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク」を立ち上げ、各地の干潟・湿地保全に取り組みさまざまな関係者の協力体制を、大きく前進させることができました。今回設立した、ラムサール・ネットワーク日本は、その成果をさらに発展させることを目指して、NPO法人として設立したものです。

4月29日の設立総会には、全国各地から31名が参加し、まず、前半で、旧ラムネット(ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク)の総括、会計報告を承認の上、活動を終結することを確認し、その後、新たに「NPO法人ラムサール・ネットワーク日本」(略称ラムネットJ)の設立を決議しました。  
NPO法人の正式の認可には、通常3〜4カ月程度の時間がかか

りますので、正式な法人設立は、9月頃になる予定です。(設立趣旨書は次頁に掲載しました。総会の詳しい資料等は、ウェブサイトでご覧下さい)

### 沖縄から参加した前川さんが泡瀬干潟の現状を報告

総会当日、沖縄から駆けつけた前川盛治さん(泡瀬干潟を守る連絡会事務局長/ラムネットJ理事)に、泡瀬干潟の埋め立て工事をめぐる最新の状況を報告してもらいました。

事業者側は、今年1月から、浚渫土砂投入の工事を強行していますが、4月に入って、泡瀬埋め

立てと一体となっている航路浚渫工事が「保留」にされている状況が明らかになりました。前川さんは、これを契機に埋め立て反対の運動をさらに盛り上げ、工事の「保留」を「中止」に追い込む決意を語りました。

泡瀬の問題は、昨年ラムサール条約会議の場で、旧ラムネットとして、日本における重大な干潟破壊の事例としてアピールしました。また、ラムサール条約会議後の旧ラムネットの活動の中から、沖縄の現地のグループと東京で有明・諫早問題や三番瀬の問題に取り組み入らたとの協力関係が深まり、その後の国会議員への働きかけを活性化させてきた経緯があります。新しいラムネットJとしても、泡瀬干潟埋め立て工事中止のために力を合わせていきましょう。

### ラムサール・ネットワーク日本の役員・事務局

代表理事 (共同代表)	柏木 実/吳地正行/花輪伸一 堀 良一
理事・事務局長	浅野正富
理事	伊藤よしの/岩淵成紀/杉澤拓男 土谷光憲/新妻香織/原 耕造 原野好正/前川盛治
監事	大村 茂/小沢秀造
事務局	青木智弘/荒尾 稔/陣内隆之 菅波 完/羽生洋三/矢嶋 悟



設立総会参加者

# 「ラムサール・ネットワーク日本」の 発足にあたって

ラムネットJ共同代表 花輪伸一

皆さまとともに「ラムサール・ネットワーク日本」（略称、ラムネットJ）の設立を祝いたいと思います。前身の「ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク」は、日韓NGO湿地フォーラム、世界NGO湿地会議の開催、ラムサールCOP10でのサイド・イベント、ブース展示、湿地資料集の作成など大きな成果を上げ、このラムネットJへと発展することができました。

ラムネットJは、地域のNGOや個人のネットワークとして、日本のナショナル・センターの役割を担うこととなります。地域NGOとラムネットJは、湿地保護のパートナーであり、目的の達成に向けて協働します。さらに、国際的には、世界湿地ネットワーク(WWN)と連携し、ラムサール条約や生物多様性条約(CBD)を活用して、湿地の生物多様性を守り賢明に利用する活動を進めていきます。日本の各地で個別に頑張ってきたNGOが、隣人の韓国やアジア、そして世界のグループとながっていくわけです。ここに、ラムネットJの存在の大きな意義があります。

現在、ラムネットJは、組織としての基盤を固めるためにNPO法人化を進めています。理事会や



事務局、常設委員会など、堅苦しい名前ですが、役割の分担をしつつあります。組織はルール(定款、規約)によって運営され、役員はある程度の任期を終えると順次交代していくこととなります。そのため、若い世代の積極的な参加を求めているかなければなりません。若い世代の参加を、ラムネットJの柱のひとつにする必要があります。

5月には、文京区本駒込に事務所を構えました。いずれ常駐のスタッフを配置できるように、経済的な基盤も整えたいと考えています。そして地域の湿地を守る活動との協働、さらには、2010年の名古屋での生物多様性条約会議、2012年のルーマニアでのラムサール条約会議など、やるべきことはたくさんあり、生まれたてのラムネットJは、大きな夢と希望にあふれています。皆さまの、積極的なご参加を期待しています。

## ラムサール・ネットワーク日本 —水辺の生命と暮らしのネットワーク— 設立趣意書

日本や韓国をはじめ東アジアの国々は、かつては湿地を賢明な方法で利用していた。湿原には水田がつくられ持続的な農業が営まれ、河川や湖沼は内水面漁業や舟運に利用され、遊水池、貯水池として治水、利水の役割も担っていた。干潟や藻場、浅海域、サンゴ礁では持続的な沿岸漁業が営まれ、豊かな漁獲があり多くの海産物が得られた。これらの湿地には、栽培植物や漁獲対象種ばかりでなく、様々な生物が数多く生育、生息し、湿地の生物多様性を保持し、水辺の生命と暮らしのつながりを形作ってきた。

しかし、国家政策として、第一次産業よりも製造業や重化学工業による経済発展が重視されるようになると、湿原や干潟は埋め立てられ、工場用地や住宅地などに姿を変えていった。減反政策で水田面積が減少し、一方では、農業が多用され生物相は貧弱になった。各地で湿地を守る市民運動がくり広げられ、いくつかの湿地は保全されたが、多くの重要な湿地が失われている。

私たちは、2008年3月に「ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク」を設立し、韓国のNGOとともに「世界NGO湿地会議」(2008年10月)を開催し、スンチョンNGO宣言の採択、「世界湿地ネットワーク(WWN)」の発足、地域に根ざしたNGOのかつてない協力、協働の広がりなど、大きな成果を上げた。また、続いて開催された第10回ラムサール条約締約国会議に参加し、「水田決議」の提案と採択など、NGOの立場で条約の実行と湿地の保全に貢献した。

私たちは、「ラムサールCOP10のための日本NGOネットワーク」の活動によって得られた成果を引き継ぎ発展させることが、日本の湿地保護運動にとって不可欠であるとの認識と合意に至ったことから、その後継組織として「ラムサール・ネットワーク日本」を設立し、地域に根ざした湿地保護運動を継続し発展させることを決意した。

「ラムサール・ネットワーク日本」は、日本各地で、湿原、河川、湖沼、水田、ため池、砂浜、干潟、浅海域、サンゴ礁、マングローブ林などの湿地にかかわる地域の環境NGOや個人から成り立っている。その目標は「地域の草の根グループと連携し、湿地にかかわるNGOのネットワークを運営し、ラムサール条約にもとづく考え方・方法により、すべての湿地の保全、再生、賢明な利用を実現する」ことである。この目標を実現するため、地域の湿地NGO、世界のNGOと連携し、ラムサール条約を有効に活用し、政策提言を行い、農林漁業との関係を重視し、一般への普及教育をすすめるなど、多くの行動が必要とされている。

私たちは「ラムサール・ネットワーク日本」を広く会員に開かれた組織として設立し、各地域で湿地保護に活動する多くのグループ、個人の意見を取り入れ、その活動を世界につなぎ、湿地の生物多様性を守り、賢明に利用し、未来の世代に引き継いでいきたいと考えている。

2009年4月29日  
「ラムサール・ネットワーク日本」  
設立総会参加者一同

## 湿地の生物多様性—ラムサール条約から見る

6月6日／東京・地球環境パートナーシッププラザ

ラムサール・ネットワーク日本では、ラムサール条約COP10の成果をCBD COP10につなげ、湿地の生物多様性を守ることを目標の一つにしています。湿地が生物多様性の大きな部分を支えているところから、この二つの条約は共同作業計画を作成、実施し、湿地部門ではラムサール条約がリードすることとされています。

来年に迫ったCBD COP10でも湿地の問題を大きく取り上げ、湿地の賢明な利用を進めるために、ラムネットJでは6月6日に東京・渋谷の地球環境

パートナーシッププラザでワークショップ「湿地の生物多様性—ラムサール条約から見る」を開催します。生物多様性や湿地保護に関心のある一般の方向けの企画ですので、お気軽にご参加ください。

また、同日の夜と翌日の2日間、ラムネットJの今後の活動計画を検討する「ラムネットJキックオフ・ミーティング」を開催します。こちらはラムネットJの関係者向けの企画ですが、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。詳しくは左欄をお読みください。

### ワークショップ 湿地の生物多様性—ラムサール条約から見る

- 日時：6月6日（土）13：00～17：00
- 場所：地球環境パートナーシッププラザ 展示スペース  
東京都渋谷区神宮前5-53-70国連大学1F
- 対象：湿地／CBD関連NGO・企業・その他一般の人
- 参加費：資料代500円（ラムネットJ会員と学生は無料）
- 内容
  1. 挨拶とラムサール・ネットワーク日本活動紹介  
花輪伸一（ラムサール・ネットワーク日本共同代表）
  2. 生物多様性条約とCBD市民ネットの取り組み  
道家哲平（IUCN／NACSJ／CBD市民ネット）
  3. ラムサール条約日本の取り組み  
尼子直輝（環境省野生生物課）
  4. ラムサール条約COP10の活動の成果  
「水田決議関連の活動を通して」  
呉地正行（ラムサール・ネットワーク日本共同代表）
  5. パネルディスカッション  
「私たちがCBD COP10で実現させたいこと」  
伊藤よしの／柏木 実／菅波 完／橋部佳紀  
堀 良一
  6. 知念良吉さんのライブ

### ラムネットJキックオフ・ミーティング

- 日時：6月6日（土）18：30～21：00  
6月7日（日）9：30～15：00
- 場所：雑司が谷（ぞうしがや）地域文化創造館 第2会議室  
東京都豊島区雑司が谷3-1-7  
千登世橋教育文化センター内
- 内容：ラムネットJの活動計画の検討と策定

お問い合わせ：ラムサール・ネットワーク日本 事務局  
TEL 03-5842-1882 E-mail info@ramnet-j.org

## 生物多様性と湿地保全

### —ドイツで感じた日本の豊かさ—

#### (1) ドナウ・モース泥炭地で感じたこと

ラムネットJ共同代表 呉地 正行

2007年6月～7月に、「生物多様性と持続的発展—日本とヨーロッパにおける湿地の保全再生を巡る生態的・社会的・経済的課題」と題したシンポジウム等（東大21世紀COEプログラムなどの共催）が開催され、参加する機会がありました。

その目的は日欧の湿地の保全・再生や持続的な地域社会の建設をめざす先進的な研究・実践政策を広く伝えるためのシンポジウム、関連各分野の人々による湿地の保全・再生の現状と未来を議論するワークショップ、及び特色ある湿地保全・再生の現地視察でした。ワークショップと現地視察はドイツ南部のバイエルン州で、公開シンポジウムは北東部の首都ベリンで行われました。またそれに引き続き、ドイツ北部と北西部の湿地を訪問し、ドイツ国内の「湿地巡り」をしました。

この中で日本とドイツの自然環境、自然観、文化の違いを再確認し、また日本の湿地の潜在的な豊かさも強く感じたので、印象に残った事例をいくつか紹介します。

ドイツ南部を流れるドナウ川流域の「ドナウ・モース」と呼ばれる広い泥炭湿地は、かつては粗放な放牧地として利用されてきましたが、1880年代中頃から農地（畑地）開発が始まりました。排水路を作り地下水位を下げた泥炭地を乾燥化させ、そこでジャガイモを中心とした畑作が大規模に行われるようになりました。その結果、約3mあった泥炭層は乾燥して薄くなり、現在では30cm程になってしまいました（写真1）。その結果泥炭中に蓄積されていた二酸化炭素の発生源となり、また地盤が2m以上も沈

下し、環境への負荷、生物多様性の低下、そして持続可能でない土地利用方法の3つの面で大きな問題となりました（写真2）。現在は持続可能な農業と生物多様性の保全再生の取り組みが積極的に進められています。ここでの教訓は、「湿地を乾燥させ、その機能を破壊してしまう土地利用は、長持ちしない」ということです。これは畑作中心の欧米では、湿地を農地利用するときには避けたい困難な問題です。一方、湿地植物の稲を水で張った水田で栽培する日本（アジア）では、数千年にもわたって湿地を利用し続けてきました。農地と湿地の顔を併せ持つ水田は、湿地の持続的な利用を可能とする高い能力を秘めています。



写真2：ドナウ・モース泥炭地での地盤沈下  
この塔の先端が1836年の地面の高さを示している。  
約170年の間に泥炭地の畑地利用によって2m以上も地盤が沈下してしまった。



写真1：ドナウ・モース泥炭地での畑作開始に伴う泥炭層の劣化  
右から1777年、1858年、1938年、現在



### ●泡瀬・辺野古・やんばる／沖縄大問題ツアーを実施しました

大問題山積の沖縄ですが、ラムネットJでは、そんなホットスポットを巡るエコツアーを実施しました。フレッシュな6名の女性陣vsNGO活動にくたびれたオヤジ7名(笑)が全国から集まり、濃密なツアーとなりました。浦島悦子さんはじめ現地の皆さんが本当に親切に案内してくださり、とても勉強になりました。泡瀬干潟や佐敷干潟では、干潟初体験の女性陣から上がる歓声のハーモニイがとても新鮮で、自然体験の楽しさや大切さを改めて感じました。実際に辺野古の海や泡瀬干潟を見て、ここが埋め立てられるのかと思うと、建設計画の無茶ぶりが実感できました。高江の米軍ヘリパット建設が地元住民の脅威となっていることも学びました。また、沖縄では米軍基地問題が生活と密接に関係していることが実感でき、とても考えさせられました。やんばるの森で進むダム建設現場を見て、公共事業に依存する沖縄の一面に心が痛みました。

現場の皆さんとの交流が深まり、また参加された皆さんそれぞれにツアー体験を自身の行動に活用されているようで、とても有意義なツアーとなりました。

(エコツアー担当：陣内隆之)

### ●市民ミュージカル・ムツゴロウラフンディ

日時／場所…6月20日(土) 13時30分・18時(2回)／大阪厚生年金会館、

6月21日(日) 17時／吹田メイシアター、7月4日(土) 18時／高槻現代劇場、7月5日(日) 18時／八尾プリズムホール、7月12日(日) 15時30分／河内長野ラプリーホール  
 内容：公募で集まった市民100人が出演する、諫早湾干拓問題をモチーフにしたミュージカル。国が公共事業の名のもとに、地域住民を分断し生活を破壊し、たくさんの生き物がわけもわからず死んでいきました。現地ではいまでも闘いが続いていることを、歌って踊って、人間の心に訴えるやり方で伝えます。http://www.parr-mark.jp/mutsugoroh.html  
 問い合わせ：大島弘三 TEL / FAX 095757534557

### ●ラムサール条約入門」発売中

日本湿地ネットワークが発行した「ラムサール条約入門」の販売を、ラムネットJが引き継ぎました。この本は条約事務局が発行した「ラムサール条約マニュアル第4版」の邦訳で、条約の歴史や活用の仕方など、条約の全体像が分かりやすく書かれています。購入ご希望の方は、ラムネットJ事務局までファックスか電子メールで、部数、送付先をお知らせください。代金は本と一緒に送り返す郵便振替用紙でお振り込みください。価格は1冊1600円(送料込み)。



## ラムサール・ネットワーク日本 会員募集!!

ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)の会員と会費は右表のとおりです。個人を対象とする一般会員を原則としますが、団体・企業会員としても入会できます。経済的な支援が可能な方は、ぜひ特別会員での入会をお願いします。

会員になるとメーリングリストに参加でき、湿地保全に関する情報交換が可能になります。また、年数回発行の「ラムネットJニュースレター」を送付いたします。

入会を希望される方は、下の入会申込書にご記入の上、下記の送付先までファックスか郵便でお送りください(または各項目を電子メールに書いてお送りください)。申込書送付後に、会員種別、口数に応じた入会申込金を、下記の口座までお振り込み願います。(恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください)

### 会員種別と入会申込金(年会費)

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

【申込書の送付先】ラムサール・ネットワーク日本 〒113-0021 東京都文京区本駒込4-38-1 富士ビル2F TEL 03-5842-1882 FAX 03-5842-1882 Eメール info@ramnet-j.org

【会費のお振込先】郵便局から ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本  
 一般銀行から ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュー)店 当座預金 0765702 ラムサール・ネットワーク日本

### ラムサール・ネットワーク日本 入会申込書 ( 年 月 日)

会員種別 (年会費)	正会員	<input type="checkbox"/> 一般 (1口5千円) <input type="checkbox"/> 団体 (1口1万円) <input type="checkbox"/> 特別 (5万円以上)	年会費 口数 ※特別会員は 年間金額	<input type="checkbox"/>	
	賛助会員	<input type="checkbox"/> 一般 (1口2千円) <input type="checkbox"/> 団体 (1口1万円) <input type="checkbox"/> 特別 (3万円以上) <input type="checkbox"/> 企業 (1口10万円)			
個人(一般会員、特別会員)			団体会員、企業会員		
氏名				団体名	
所属 (無記入でも可)				代表者	担当者
住所	〒			電話番号	
Eメール				メーリングリストへの参加 <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない	